

シーズ分野;臨床医学 産科学婦人科学

研究シーズ;仙骨部表面電気刺激による切迫早産や発育不良の治療

— 従来は妊婦に適用されていなかった手段を科学的に検証する —



滋賀医科大学 産科学婦人科学講座
教授 村上 節

「お腹の中の赤ちゃんを育てる新たな取組み」

■関連文献・特許

・Safety of sacral surface therapeutic electrical stimulation for pregnant women focused on threatened premature labor: A Pilot Study. (in submitting)

■研究概要

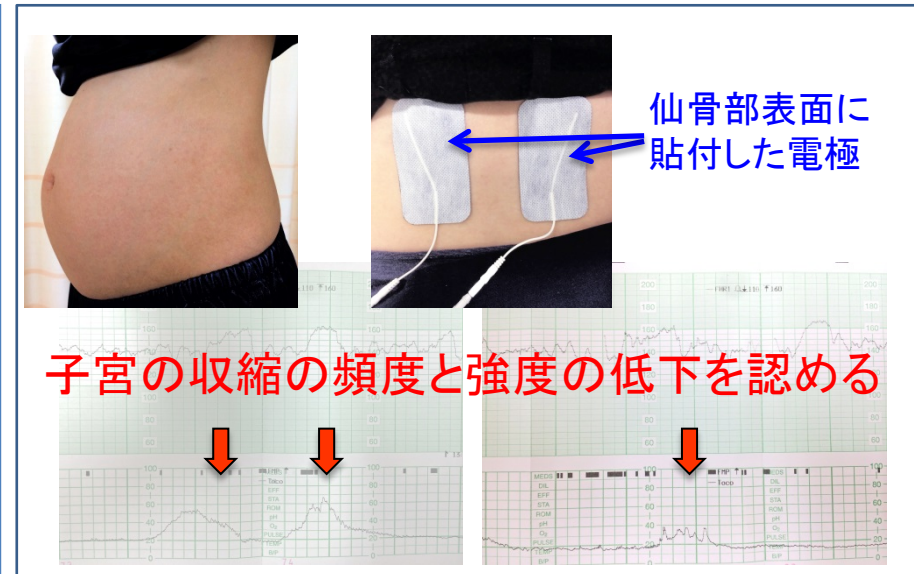
仙骨部表面電気刺激療法は、低周波電流による膀胱や子宮の過度の収縮を抑制する治療法である。

我々は、このような電気刺激装置を使って早産の予防や胎児発育不良の治療ができるのではないかと考え、これまでに妊娠中の女性やお腹の中の胎児への安全を確かめてきた。

今後は治療効果について検討する予定であるが、この方法が科学的に有用であると証明できれば、健康な赤ちゃんを授かるための新しい医療ニーズが生まれると考えている。

■応用展開・共同研究テーマ例

- ・妊婦への適用を考えた専用電気刺激装置の研究開発
- ・電気刺激効果のメカニズムと検証に関する共同研究



■研究者からのお願い(ニーズ)

- ・上記テーマを進めるため、医療機器メーカーと共同研究がしたい
- ・自律神経の働きを数値化できる装置がほしい(開発したい)

お問い合わせ先

滋賀医科大学 研究推進課 産学連携担当

077-548-2847 E-mail;hqsangaku@belle.shiga-med.ac.jp